



2019年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(非連結)

2018年8月10日

上場会社名 株式会社京都ホテル 上場取引所 東
 コード番号 9723 URL https://www.kyotohotel.co.jp/
 代表者 (役職名)代表取締役社長 (氏名) 福永 法弘
 問合せ先責任者 (役職名)取締役経理部長 (氏名) 西川 治彦 (TEL)075(211)5111
 四半期報告書提出予定日 2018年8月13日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2019年3月期第1四半期の業績 (2018年4月1日~2018年6月30日)

(1) 経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2019年3月期第1四半期	2,779	—	316	—	270	—	172	—
2018年3月期第1四半期	2,399	△6.4	97	△6.2	48	—	29	—

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2019年3月期第1四半期	15.57	—
2018年3月期第1四半期	2.67	—

(注) 当社は、2018年3月期より決算期を12月31日から3月31日に変更しております。これに伴い、2019年3月期第1四半期(2018年4月1日から2018年6月30日)は、比較対象となる2018年3月期第1四半期(2017年1月1日から2017年3月31日)とは対象期間が異なるため、2019年3月期第1四半期の対前年同四半期増減率については記載しておりません。

[参考]

下記の%表示(増減率)は、2018年3月期第1四半期(2018年4月1日から2018年6月30日)に対応する前年同期間(2017年4月1日から2017年6月30日)と比較した増減率です。(金額単位:百万円)

売上高 2,779 3.1% 営業利益 316 9.9% 経常利益 270 12.1% 四半期純利益 172 △4.8%

(2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2019年3月期第1四半期	17,898	2,441	13.6
2018年3月期	18,280	2,323	12.7

(参考) 自己資本 2019年3月期第1四半期 2,441百万円 2018年3月期 2,323百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2018年3月期	—	—	—	5.00	5.00
2019年3月期	—	—	—	—	—
2019年3月期(予想)	—	—	—	3.00	3.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2019年3月期の業績予想 (2018年4月1日~2019年3月31日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	4,889	—	66	—	△27	—	△56	—	△5.05
通期	10,352	—	435	—	250	—	120	—	10.82

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

2018年3月期は決算期変更により15ヶ月決算となっております。このため、対前期、対前年同四半期増減率については記載しておりません。

※ 注記事項

- (1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
 - ② ①以外の会計方針の変更 : 無
 - ③ 会計上の見積りの変更 : 無
 - ④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2019年3月期1Q	11,091,400株	2018年3月期	11,091,400株
② 期末自己株式数	2019年3月期1Q	54株	2018年3月期	54株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2019年3月期1Q	11,091,346株	2018年3月期1Q	11,060,703株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

- ・本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期貸借対照表	4
(2) 四半期損益計算書	6
(3) 四半期財務諸表に関する注記事項	7
(継続企業の前提に関する注記)	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	7
(セグメント情報等)	7
(追加情報)	7

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当社の前事業年度は決算期の変更により、2017年1月1日から2018年3月31日までの15ヶ月間となっております。これにより、当第1四半期累計期間（2018年4月1日から2018年6月30日）は比較対象となる前第1四半期累計期間（2017年1月1日から2017年3月31日）と対象期間が異なるため、前年同四半期との比較は行っておりません。ただし、当第1四半期累計期間の実績をよりわかり易く表現するために、参考数値として2017年4月から6月の3ヶ月間合計の実績との比較を「前年同期間比」として一部記載しております。

当第1四半期累計期間におけるわが国経済は、各種政策の効果、企業収益や雇用環境の改善等を背景に、緩やかな回復基調が続いているものの、大規模災害発生、異常気象に伴う国内経済の不安定さや地政学的リスクの継続が懸念されるなど、依然先行きは不透明な状況で推移しております。

京都のホテル業界におきましては、国内客の安定した推移に加え、訪日外国人観光客も好調に推移する一方で、京都市内のホテル建設ラッシュや民泊の台頭などにより、競争環境は一段と激しさを増しております。

このような状況の中、当社におきましては2016年12月期を初年度とする3ヶ年の中期経営計画の最終年度として、創業130周年の記念事業の展開など中期経営計画の諸施策を着実に実行してまいりました。

この結果、当第1四半期累計期間の売上高は2,779百万円（前年同期間比84百万円増）となりました。また、収益面におきましては、増収効果に加え前年同様に原価管理の強化や徹底した経費削減に取り組んだ結果、営業利益316百万円（前年同期間比28百万円増）、経常利益270百万円（前年同期間比29百万円増）、四半期純利益172百万円（前年同期間比8百万円減）となりました。

ホテル事業の部門別営業概況は次のとおりです。

（宿泊部門）

京都ホテルオークラの宿泊売上高は、4月の桜の時期に高単価販売が出来たこと、インターネット販売では特に海外OTAの堅調な予約の増加、個人会員の増加により好調に推移しておりましたが、6月の震災の影響によるキャンセルが発生したことにより、売上高は前年同期間比10百万円の微増に終わりました。

からすま京都ホテルにおきましては、修学旅行をはじめとする国内団体、外国人が好調に推移し、単価の上昇も加え、売上高は前年同期間比13百万円増となりました。

これらの結果、宿泊部門全体の売上高は1,026百万円（前年同期間比2.4%増）となりました。

（宴会部門）

京都ホテルオークラの婚礼宴会は、件数増加に反し人数が大きく減少したことで売上は減少いたしました。一般宴会において件数が増加したことで、売上高は前年同期間比20百万円増となりました。

からすま京都ホテルでは、一般宴会や会議利用の件数が増えたことに加え、宿泊人数の増加に伴う朝食利用も増え、売上高は前年同期間比27百万円増となりました。

この結果、宴会部門全体の売上高は902百万円（前年同期間比5.6%増）となりました。

（レストラン部門）

京都ホテルオークラの館内店舗におきましては、隣接するテナントを一部拡張するため減床工事を行ったテラスレストラン「バルカント」及び朝食営業を廃止した中国料理「桃李」が低調に推移しましたが、朝食利用人数が増加したトップラウンジ「オリゾンテ」、京料理「入舟」が堅調に推移したことにより、売上高は前年同期間比増加いたしました。また、館外店舗におきましては、京都ホテルオークラ別邸「粟田山荘」で月曜定休を導入したことにより、売上高は前年同期間比減少となりました。

からすま京都ホテルでは、中国料理「桃李」、お食事処「入舟」とともに、昼のグループの利用が減少したことにより、売上高は前年同期間比で微減となりました。

この結果、レストラン部門全体の売上高は717百万円（前年同期間比1.2%増）となりました。

(その他部門)

その他部門の売上高は133百万円（前年同期間比3.4%増）となりました。

主な事業はフィットネスクラブ、テナント収入等であり、安定した収益を計上しております。

部門別の売上高及び構成比等は、以下のとおりです。

区分	当第1四半期累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年6月30日)		前年同期間比 (%)
	金額(千円)	構成比(%)	
宿泊部門	1,026,181	36.9	2.4
宴会部門	902,907	32.5	5.6
レストラン部門	717,793	25.8	1.2
その他部門	133,028	4.8	3.4
合計	2,779,912	100.0	3.1

(2) 財政状態に関する説明

当第1四半期会計期間末における総資産は、前事業年度末に比べ381百万円減少し、17,898百万円となりました。

負債は、前事業年度末に比べ498百万円減少し、15,457百万円となりました。

純資産は前事業年度末に比べ117百万円増加し、2,441百万円となり、自己資本比率は13.6%となりました。

(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

2019年3月期の業績予想につきましては、2018年5月9日に公表しました予想値をほぼ達成可能とみていることから、修正は行っておりません。今後の経済状況や旅行者等の動向情報を収集した上で、業績見込みについて見直しが必要と判断した場合には、速やかに開示いたします。

2. 四半期財務諸表及び主な注記

(1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (2018年3月31日)	当第1四半期会計期間 (2018年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,363,222	1,246,793
売掛金	512,849	456,597
原材料及び貯蔵品	67,791	66,731
前払費用	38,244	49,393
その他	23,961	14,026
貸倒引当金	△432	△89
流動資産合計	2,005,636	1,833,453
固定資産		
有形固定資産		
建物(純額)	10,335,379	10,198,107
構築物(純額)	40,461	40,126
機械装置及び運搬具(純額)	53,902	60,281
器具及び備品(純額)	317,152	304,607
土地	5,071,341	5,071,341
リース資産(純額)	130,808	122,091
建設仮勘定	1,600	-
有形固定資産合計	15,950,646	15,796,555
無形固定資産		
ソフトウェア	6,239	6,402
リース資産	109,877	105,643
電話加入権	4,429	4,429
商標権	304	291
無形固定資産合計	120,850	116,767
投資その他の資産		
投資有価証券	10,000	10,000
長期前払費用	8,525	7,302
差入保証金	54,365	54,365
繰延税金資産	118,694	69,179
その他	11,545	11,545
貸倒引当金	△262	△262
投資その他の資産合計	202,869	152,131
固定資産合計	16,274,366	16,065,454
資産合計	18,280,003	17,898,908

(単位：千円)

	前事業年度 (2018年3月31日)	当第1四半期会計期間 (2018年6月30日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	202,751	165,722
1年内返済予定の長期借入金	758,453	662,000
リース債務	68,191	68,769
未払金	866,899	612,892
未払費用	95,715	146,498
未払法人税等	7,686	33,841
前受金	134,150	84,208
預り金	43,154	81,090
前受収益	37,894	31,438
賞与引当金	106,890	-
ポイント引当金	7,915	3,572
その他	25,433	25,127
流動負債合計	2,355,135	1,915,162
固定負債		
長期借入金	12,132,000	12,103,500
リース債務	199,522	185,113
長期未払金	430,529	408,655
退職給付引当金	2,063	5,993
長期預り保証金	836,829	839,329
固定負債合計	13,600,944	13,542,591
負債合計	15,956,080	15,457,753
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,268,924	1,268,924
資本剰余金		
資本準備金	450,229	450,229
その他資本剰余金	80,265	80,265
資本剰余金合計	530,494	530,494
利益剰余金		
その他利益剰余金		
繰越利益剰余金	524,545	641,777
利益剰余金合計	524,545	641,777
自己株式	△42	△42
株主資本合計	2,323,922	2,441,154
純資産合計	2,323,922	2,441,154
負債純資産合計	18,280,003	17,898,908

(2) 四半期損益計算書

第1四半期累計期間

(単位：千円)

	前第1四半期累計期間 (自2017年1月1日 至2017年3月31日)	当第1四半期累計期間 (自2018年4月1日 至2018年6月30日)
売上高		
室料売上	733,705	1,004,372
料理売上	947,583	969,465
飲料売上	193,115	199,897
雑貨売上	121,428	148,218
その他売上	403,556	457,957
売上高合計	2,399,390	2,779,912
売上原価		
料理原料	281,869	282,098
飲料原料	41,018	42,780
雑貨原価	95,794	114,406
その他原価	59,742	74,061
売上原価合計	478,424	513,347
売上総利益	1,920,966	2,266,564
販売費及び一般管理費	1,823,462	1,949,663
営業利益	97,503	316,900
営業外収益		
補助金収入	275	160
受取手数料	970	1,195
基地局設置手数料	94	584
その他	1,667	1,294
営業外収益合計	3,007	3,235
営業外費用		
支払利息	51,581	48,745
支払手数料	250	250
その他	645	199
営業外費用合計	52,476	49,194
経常利益	48,033	270,941
特別損失		
固定資産除却損	15,430	26,465
特別損失合計	15,430	26,465
税引前四半期純利益	32,603	244,476
法人税、住民税及び事業税	7,739	22,272
法人税等調整額	△4,623	49,515
法人税等合計	3,115	71,787
四半期純利益	29,487	172,688

(3) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

当社は、内外顧客の宿泊・料理飲食・宴会等を中心とするホテル経営及びホテル付随業務を事業内容としております。経営資源の配分の決定及び業績評価は当社全体で行っていること等から判断して、報告セグメントが単一であるため、セグメント情報の記載を省略しております。

(追加情報)

「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号平成30年2月16日)等を当第1四半期会計期間の期首から適用しており、繰延税金資産は投資その他の資産の区分に表示しております。